

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	学校像	聴覚障害教育の学校として、学ぶ意欲にあふれ、心豊かにたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたちを育成する学校。	目指すべき取組姿の概要要に	
《取組の方向性》	《6つの基本方針》 ①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前の教育 ⑥生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 《6つの基本方針に関わる横断的な取組》 ①不登校への総合的な対応 ②学校における働き方改革の推進	目指すべき姿	知・徳・体の調和のとれた、自らの人生を切り拓き、主体的に生きる幼児児童生徒		・教職員の専門性の向上並びに効果的なICTの活用で幼児児童生徒の学力の向上を目指す。 ・キャリア教育の推進により幼児児童生徒がよりよく生きることを目指す。 ・本校の魅力を発信し、在籍者数の増加を目指すとともに、学校外との交流により幼児児童生徒のコミュニケーション力および社会性を育てる。

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目		取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】		
専門性の向上	主体的・対話的で深い学びの推進	・ICTの有効活用と共に、教職員の聴覚障害教育の専門性を向上させ、「主体的・対話的で深い学び」を実践し、幼児児童生徒の学習意欲及びコミュニケーション能力の向上を図り、生きる力の向上を目指す。 ・ キャリア教育を中心とした、重複学級の教育課程及び教育内容の見直しを図り、授業改善を行いながら教育の充実を図る。	【現状】 ・ICT、視覚教材を活用した授業改善が進んできている。また、聴覚障害の専門性を継承するための研修の充実を図っている。 ・重複学級の教育課程について、各教科の内容を重視した授業改善を行っている。 【目標】 ・ 教員一人1回の公開授業とICT、視覚教材を活用した実践事例を1事例蓄積する。 ・ 授業スタンダード票の自己重点目標を達成する。	・(幼)学部で幼児の実態や課題を共有し、学部テーマに基づいた授業実践、授業改善、ICTの活用をすすめていく。 ・ICT機器や視覚教材を活用した授業を実践して集録にまとめ、教科や学部の取組の成果と課題を学部内で共有し、次年度につなげる。 ・授業スタンダード票に自己重点目標の項目を追加する。 ・授業スタンダード票を定期的に見返す日を設定し、自分の授業に課題意識をもって授業改善に取り組む。 ・5月～11月に教員が1回公開授業をする。	A	・(幼)幼児の実態や課題について、学部研を中心に教員間で共有に努めている。ICTについては、幼児の課題に応じて日々の授業で活用している。 ・『みらいスクールステーション』の「教材コンテンツ」を活用した授業を実施できている。 ・ICT機器の効果的な活用について、教員間で情報共有ができている。 ・(中)(高)教員の半数が公開授業を終了している。 ・重複学級の授業について、担当者で相談や情報共有ができており、授業計画の見直しや授業改善に向けた取組ができている。	・(幼)各クラスで学部テーマを踏まえ、個々の課題に応じた授業を行う。2学期の公開授業、研究協議を通して学部で共有し、授業改善を行う。 ・引き続き公開授業を実施する。	A	・学校では、ICTを活用し、個々に応じたオリジナル教材を工夫して、効果的に学習できるように努めている。 ・明確な目標と継続したと取組を評価する。教員一人一人が何をすればいいのかを理解しており、その効果が表れていると思われる。 ・防災学習の参観をした。考えさせながら進める授業で深い学びに繋がっていると感じた。 ・教員の専門性については異動等で苦心していると聞いているが、熱心に取り組んでいる。 ・立地が良く、体験学習をする環境が整っており、それを生かした取組ができている。 ・地域との手紙のやり取りや、万々商店街の清掃活動等、様々な場面でコミュニケーションの力をつけるねらいが感じられる。体験学習も重視されている。	・児童生徒が主体的にICTを活用できるように、継続して取り組む。 ・個々の重点目標を達成できるように、主体的・対話的で深い学びの視点で日々授業改善を行う。 ・聴覚障害教育の専門性の向上を図る。	
	キャリア教育の充実	・子供一人一人の発達段階における課題の達成を通して、将来、社会人として自立していくために必要な意欲・態度・能力を身につけ、それぞれの人生を「よりよく生きる」ことを目指す。 ・ 体育系、文科系の部活動の在り方について見直しを行い、充実を図る。	【現状】 ・校外学習や行事等を通して地域貢献や交流を行っている。 ・卒業学年の進路実現率は100%達成している。 ・体育系の部活動については、部員が少なく練習内容が限られている。 【目標】 ・ 幼小中は、年間1回、高は2回のキャリア教育を実施する。 ・ 部活動における規則を守りながら、体力・技能の向上を図る。 ・ SDGsについての理解を深めながら、各学部等で取り組める内容を検討し、可能な範囲で具体的な取り組みを進める。	・(幼)幼児の発達段階、興味・関心に応じた系統的なキャリア教育を実践する。 ・(小)集会活動(花壇の世話、ルールのある遊び)や個別の学習(生活単元学習、総合、生活科など)で継続的に進めていく。 ・家庭、担任、進路部で連携を図り、生徒の実態や状況に応じたキャリア教育推進プランや就業体験学習を提案し実施する。 ・(部活動)月ごとに様々なトレーニングに取り組む。 ・地域と連携した清掃活動を充実させるとともに新たな取り組みにチャレンジする。	A	・生活や集団活動等を通してキャリア教育の実施。 ・校外清掃活動2回実施。 ・ゴミの分類、廃棄、ペットボトルキャップの回収等、エコ活動(SDGs)に取り組んだ。 ・中・高等部のキャリア学習1回目終了。 ・高の就業体験実施。重複の生徒についてはグループホームの体験を2日実施。 ・進路相談会の実施。 ・アフターケアを1件実施した。 ・多様目を経験させたり、様々なトレーニング方法を経験させたりすることができている。	・(幼)それぞれの幼児の実態に応じたキャリア教育の視点・課題をもちながら、取り組む。合同学習ではできるだけ集団としての活動が保障できるよう時間等の工夫をしている。 ・中・高等部のキャリア学習1回目(重複)については11月に実施予定。 ・中・高等部のキャリア学習2回目(重複)については1月に実施予定。 ・(中)キャリア教育推進プランとして、学習発表会にて学習の取組を発表予定である。 ・引き続き、様々なトレーニングに取り組めるよう、季節に応じた種目等も実施していく。	A	・(幼)日々の学習や実体験できる校外学習等を通して、幼児の実態に応じた課題を設定しながらキャリア教育を進めていくことができた。小さな集団であるが、子ども同士の関わりを楽しんだり伝えたりすることや、相手を思いやる気持ち表現したりすることが増えてきた。 ・(小)集会活動(花壇の世話、ルールのある遊び)や個別の学習(生活単元学習、総合、生活科など)は、1年間を通じて取り組むことができた。 ・(小)校外清掃活動(万々商店街清掃)について、これまで3年間取り組んできたことを学習発表会にて報告し、地域の方にも見て頂くことができた。またNHKの子ども番組作りでも校外清掃活動で取り組み、情報発信することができた。(見込み) ・(中高)重複学級の学習や、生徒会の係活動として、ペットボトルキャップの回収作業や、選別などの活動を行った。来年度のはじめに今年度の成果について生徒会で報告する予定。 ・(中高)キャリア学習2回目(準ずる・重複)では就業体験学習やキャリア教育の取組について発表し、それぞれの生徒・学級の取組を全体で共有することができた。 ・進路相談会を夏季休業中に実施。学校・家庭・関係機関が参加し、支援の方法や進路についての情報を共有することができた。 ・部活動では、年間を通して、基礎体力の向上を目的にした活動に取り組むことができた。	A	・県下の学校のサポート事業に取り組む、体験学習やサマースクール等での交流も行っている。それをきっかけに交流が続いている子ども達もいる。また、療育センターとの連携も行っている。 ・幼稚園から体系的に学習プログラムを組み、実体験をもとに学習を深めている。見聞きた出来事を自分事として捉えていくことで将来の自分を考える材料となる。幼児児童生徒も含めてその取組ができている。 ・部活動の数が少ないのが残念ではあるが、四豊体(四国地区豊学校体育大会)等の取組を継続して行っている。 ・万々商店街の取組と学習発表会の取組を評価する。 ・運動会で卒業生も一緒に活躍する場面を見ることができた。 ・NHKから依頼があった小学部の体験学習に現在取り組んでいる。 ・学習発表会で各学年の取組を知ることができた。素晴らしい。大勢の人たちの前で発表すること、子ども達で会の進行を行うことにも意義を感じた。全校の子ども達を理解する機会となった。
高知ろう学校の魅力発信	地域との連携・協働の推進	・他校との交流の促進により本校の魅力を発信し、在籍者の人数増を図る。 ・他障害種や居住地校交流の促進を図る中で、聴覚障害や本校教育への理解を促進し、子供のコミュニケーション力、相手を思いやる気持ち、社会性を育てる。	【現状】 ・地域校や居住地校交流等の交流は、直接、間接交流ともに積極的に行われている。 ・関係機関等との情報共有が図られ、聴覚障害についての研修の講師依頼もある。 ・地域交流については、毎年、内容を変え実施している。	・(幼)地域校交流について、方法や内容の話し合いをもちながら月1回の交流をすすめていく。居住地校交流についても、1校はこれまでのように月1回の交流を継続し内容の充実を図っていく。新たな1校については子どもについての情報の共有をしなが、学期に1回を目安にすすめていく。 ・(小)第六小学校と遠足交流の他、直接交流で学年別理解啓発学習や高知ろう学校訪問が実現するよう努めていく。また居住地校交流が2回以上できるよう計画的に進めていく。		・交流及び共同学習に関しては、計画通りに進捗している。 ・地域交流は、11月に計画を設けるなど、内容を充実させながら継続していく。 ・高知みかづき分校との交流学習を実施した。	・(幼)地域交流については、年齢別の交流を実施していく。居住地校交流については、幼児の日頃の学習を発表できる場を設けるなど、内容を充実させながら継続していく。 ・(中)江ノ口との交流学習を実施予定である。 ・11月に地域交流を実施予定である。 ・次年度も引き続き実施していく。	(小)第六小学校交流は、年度当初に予定されていた計画すべてを実施、計5回直接交流することができた。 (小)居住地校交流について、居住地校と話し合いで決めた回数をそれぞれ予定通り交流することができた。 (小)地域交流について、小学部は親子行事も兼ねて行った。保護者のみなさんも童心にかえり、楽しんでくださった。	・第六小学校と小学部の交流学習は平成6年度から継続して行われており、居住地校交流もそれぞれに取り組んでいる。街中で合ったら声をかけてくれたり、相手校の子どもは達から積極的に関わってくれるようになっている。小さい頃から自然に気持ちが育ってきていると考える。 ・小津高校との交流は、コロナの関係で久しぶりに再開できた。高校になると小学校のようにはいかないが、取組の中で相互に関わり方を学んでいる。	・引き続き、他校及び居住地校との交流やサポート事業を充実させる。 ・よりいっそう、安心安全な教育環境の整備を目指し、その魅力を配信する。	

			【目標】 ・地域校や居住地校交流等幼児児童生徒全員、2回以上の交流を行う。 ・聴覚障害のある幼児児童生徒が高知ろう学校へ来校して交流する行事を年2回以上実施する。 ・地域住民が参加できる行事の計画実施を行う。	・(地域交流)学校行事の連絡をホームページ等で配信し、参加を促す。 ・(中)は江の口特別支援学校、(高)は小津高校との交流を実施する。 ・みかつき分校との交流を例年どおり実施し、地域交流の際は、内容によってはみかつき分校にも声をかける。	A			A ・(中)高知江の口特別支援学校との間接交流(オンライン)を1回行い、それぞれの学習の発表やゲームなどをして交流をすることができた。(2月15日予定) また、1部の生徒については、居住地校交流(直接)を行い、理解啓発学習や集団でのゲーム等に取り組んだ。 ・(高)小津高校との訪問交流を再開し、3回訪問し交流を深めることができた。 ・(中高)計画していた交流学習はほぼ計画通りに実施できている。 ・(中)江ノ口特別支援学校との交流をオンラインで実施予定。販売学習の取組を発表したり、ゲームなどで交流する予定である。 ・(高)小津校の文化祭や、小津校生との関わりを楽しむことができた。	A ・学校間交流を継続できているのが、ろう学校の良い所。それぞれの学校が目標をもって取り組むので、互いに学びを深めることができる。今後も継続していってほしい。 ・交流校の児童の家庭でろう学校の子どものことが話題になったことがあると聞いた。このように地域で子どものことを知ってもらうことが大切だと思う。 ・オンラインで香川聴覚支援学校との交流も行っている。 ・ICTを活用した交流が良い。 ・聴覚障害者協会青年部との交流は、今年度は中止になったが、大人になっても交流できる良い取組だと思う。 ・地域でも、防災学習や、みかつきまつり等への参加について声掛けをする。 ・今年の地域交流行事は学習発表会とセットで行えたので、保護者の方にも参加していただき、地域に関わる様子も見ていただき、また、一緒に製作したことで時間短縮もできた。保護者が参加できる交流を希望する。地域交流が積極的に行われており、相互理解の機会になっている。	
働き方改革	持続可能な学校教育の中で教育成果を維持し、向上させるため、学校の労働生産性を向上させる。	【現状】 ・文書のデータ化、すぐーるの活用により印刷や配付の業務が軽減されている。 ・会議を設定しない日、夏季休業中の閉庁日を設けている。 ・学部間を越えた教科の乗り入れを行っている。 【目標】 ・教科の学部間交流、合同授業を行う。 ・『みらいスクールステーション』を授業に校内放送に活用できる。	・人権の花を幼、小、中、高等部合同で行う。 ・(外国語)あるテーマについて合同の異文化学習をしたり、異学年へインタビューするなど、異学年とのやり取りを授業に取り入れる。 ・授業や避難訓練などで『みらいスクールステーション』を活用する。	B	・人権の花を11月に実施する。 ・『みらいスクールステーション』を活用した授業や避難訓練を実施している	・(外国語)ALT学習等を活用し、他学部の生徒と交流できる機会を設定する。 ・自動的に立ち上げることができないため、教職員間での使い方の共有が必要。	B (小)人権の花について、幼中高等部も参加して計画通り実施することができた。 ・(小)ALT合同学習では、異学年の児童同士でインタビューをするなど、英語のやり取りを楽しむことができた。 ・(中高)学年や学部の合同授業において、『みらいスクールステーション』を活用した学習を実施し、作業の効率化や教材の共有を図ることができた。 ・『みらいスクールステーション』を活用した避難訓練では、画面を立ち上げをこれまでの【教員】から、実際に立ち上げる可能性の高い【事務職員】に移行し、避難訓練の際に操作の実践をしている。 ・(中高)『みらいスクールステーション』の教材コンテンツの活用で教材の共有化ができ、学習状況の把握や授業準備等の教員の負担軽減につながった。	B ・みらいスクールステーションは、以前の接続時の不具合を解消することができ、教材提示だけでなく、不審者侵入時や災害時にも情報ボードとして活用できる。しかし、緊急時に誰かがパソコンを操作するのが課題となっている。 ・一斉に繋がるものがあるのは便利。災害時は最優先で情報配信できるようにシステム化できると良い。 ・通信環境が良くない。ネット環境の改善が必要。 ・避難所にはWi-Fiがないので環境整備が必要。学校も早急にしないといけない。 ・ALT等の合同の取組については、中高だけでなく小学部の学習や行事にも参加してもらい、色々な取組を合同で行うことができている。また、中高の英語の授業の乗り入れも行っている。 ・働き方改革は教員向けであるが、保護者や子どもと共有して進める必要がある。 ・重複障害(肢体不自由)の子どもへの対応についても考えてほしい。高知はノーリフトの取組を進めているが、教育現場では進んでいない。ろう学校でも、先生たちの身体を守るためにもトイレやベッド等の環境整備をお願いしたい。 ・すぐーる等を活用して減らせる仕事を工夫していただきたい。 ・部活動指導も外部の方を呼ぶという考えも良いと思う。 ・コミュニティで教育を推進して行ってほしい。。地域に囲まれて子ども達を育てていくという構想を実現させてほしい。 ・改革半ばであると思うので、今後も継続して課題に取り組んでほしい。	・各部署の連携を深め、協働での学校運営の意識を高める。 ・情報共有の意識を高めるとともに、スムーズな連絡を取り合える工夫を検討していく。 ・引き続き、個々のワークライフバランスの意識を高める工夫を検討していく。 ・教員同士のコミュニケーションをより深めるための工夫を検討していく。	